

近隣の自然の変化に触れる No. 4 / 本橋野草苑

「春が来た(2) Spring has come(2) @Motohashi garden」

2022年3月26日

春分が過ぎ、春が駆け足でやって来ている感じですが。本橋野草苑シリーズでは紹介しませんが（先の近隣の花シリーズ

No.1 http://sengawacx.com/LookNatureN01_2020.jpg と

No.41 http://sengawacx.com/LookNatureNo41_2021.jpg

で桜花を特集しました。高遠小彼岸桜が満開です。

野草苑には、カタクリ（昔は根から片栗粉＝デンプンを取っていたほどありきたりの野草であったが、可憐な花は希少でファンが多い）、ヒトリシズカは春先にブラシ状の花を咲かせる。リュウキンカ（立金花）を初めて見たのは6月の尾瀬ヶ原であったが、3月の庭先に金色に見える花が咲く。深い白色の利休梅は、茶花として利用される。一本の木に多くの花を咲かせる様は華やか。桜、梅、桃の花に似たアーモンドは、どれもバラ科の植物。

多様性の例を3種挙げた。アセビ（馬酔木）（別名アシビ）は日本原産。ジンチョウゲ(沈丁花)は色が違うだけだが、甘い香りは香木（丁子<クローブ>に似た香り）として利用されている。

椿は、日本原種の植物（*Camellia japonica*）で他種多様な花が知られている。アルバムに紹介している椿はほんの一部で、古風な名が付け加えられている。シーボルトが江戸末期にヨーロッパに枝木を持って行きつた。その記録が手描きカラー版の「日本植物誌（“*Flora Japonica*”）」に収められている。その中の代表（復刻版では表紙絵に利用されている）植物はツバキであった。